

# いよいよ市議選、15日告示

## 日本共産党の2議席を

## 連日の訴え



日本共産党  
北茨城市委員会  
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団  
ニュース

ご相談は  
お気軽に

市議会議員  
福田 明  
43-0468

市議会議員  
鈴木やす子  
42-2462



雇用が悪化が深刻です。市内でも「会社の仕事が減った」との声がよく聞かれます。私に相談にきた若夫婦は、9ヶ月の子を抱えた三人家



私は、北海道の旭川市に生まれ育ちました。かつて革新市政のもとで「平和・

族で、夫は派遣で懸命に働いていましたが、昨年末で解雇され、寮まで追われしました。私は人間を物扱いするこの異常な社会を変え、ひとりの市民も路頭に迷うことがないように全力をつくします。

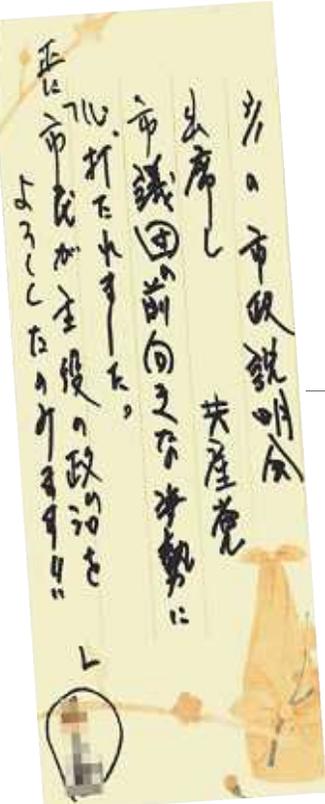
### 福田 明

私は26才で初当選しました。以来、7期26年間、住民のいのちと暮らしを守る先頭にたつて活動できるのも、みなさんの支援の賜物です。私はこの間、議会(年4回)では毎回質問し、歴代4人の市長と論戦してきました。その質問回数は26年で104回。これは北茨城市議会の連続最多質問回数です。2月の議会最終日、ある先輩議員が「何といつてもあなたの質問が一番だよ」と言つて、政治的立場の違いを超えて評価してくれました。

政治を変えるには、ひとりの力ではできません。市民の力、議会においても他の議員の力が必要です。私は今後とも道理ある提案で市政を動かし、他党との共同も推進しながら、市民要求実現の先頭に立つ決意です。

ある市民の方が、多分、自分の生涯の中で、最後の手紙になるだろうとの思いで書いた手紙をいただきました。その手紙は、私たち家族に対するお礼の言葉と同時に、「あなたは、北茨城の良心です。体に気をつけて、市民のためにがんばってください」と結ばれていました。

日本共産党の議員団長の彼が、初当選したのは26才の時です。彼とはそれ以来の付き合いです。政治的な立場は異にしましたが、人間的には妙にうまが合い、私心なく市民につくすという彼の姿勢には、いつも感心していました。彼は市政に絶対なくてはならない人です。(元・市議会議員)



青年都市」がキャッチフレーズでした。最近「命の輝き」を伝える旭山動物園が有名になっていきます。が、戦前は陸軍の師団本部がある軍都でした。戦後に自衛隊の基地となり、数年前のイラク派兵では第一陣が旭川市から送り出されました。平和を信じきつて過ごした街が、じつは戦場と直結していたのです。

### 鈴木やす子

両親は自営業でした。幼かった私が病気になることも看病してもらえないほどに、働きづめでした。大学の夜間部にすすみ、働く人が大切にされる社会、そして平和のために誠実にがんばっている日本共産党の姿にふれて、私もその一員となりました。

はじめての子を授かったときに、自然の中で育てたいと願い、夫の故郷である北茨城市に移り住みました。24年前のことです。儲けはないだろうけれども、絶対に欠かせない仕事として農業を選んだつもりでした。いつぼう、いまの若い人は、働く場所すら奪われ

子どもたちがのびのびと育ち、ひとり一人が能力を活かして働くことができ、もし身体が弱くなっても支えあい、暮らしの基礎には安全な食べ物と平和があること。そういう人間らしい社会を誰もがのぞんでいるはず。これまで自民・公明がす

3月15日 **第一声** 9時30分

それぞれの事務所前で、福田明候補の出陣式には田谷たけお党県委員長が、鈴木やす子候補には大内久美子県会議員が応援に駆けつけます。